

平成 29 年 9 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 29 年 8 月 29 日（火） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、
NHK、KNB、BBT、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 9 月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容

- ・総事業費 123,768 千円（うち一般財源 63,462 千円）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 魚津市総合防災訓練の概要

- ・実施日時 9 月 24 日（日）8 時 30 分から 12 時 00 分まで
- ・実施場所 メイン会場 魚津市村木地区（魚津市立村木小学校）
今年度から、市の東西でメイン会場 1 地区、それ以外をサテライト会場とし、2 年ごとに各地区が訓練を行うことができるようにした。
訓練に参加される村木地区住民が必ず何らかの訓練に参加してもらうようにした。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) 英語教育推進事業について

- ・平成 29 年 2 学期（9 月）から小学校専任の A L T を 1 名配置し、外国語活動をサポートする。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・小中学校 2 学期始業式
- ・住吉・上中島・松倉統合小学校木造校舎新築事業安全祈願祭
- ・住吉・上中島・松倉統合小学校校名募集（9 月 1 日から 10 月 3 日まで）
- ・市内小中学校体育大会（住吉小は工事の関係で一学期中に開催済み）
- ・2017 桃山チャレンジ

- ・第15回 魚津カップジュニア駅伝競走（ありそドーム起点）
- ・世界で最も美しい湾ウオーク～魚津海岸～（魚津市役所正面玄関スタート）

〈企画総務部長〉

- ・9月魚津市議会定例会（9/6～10/6 会期31日間）
昨年度から決算特別委員会の審査を会期中に行うため、会期の後半は決算の認定関係が主となる。
- ・ほんごう未来会議（第4回「みんなでつくるアクションプラン②」）
- ・第4回水の学び舎ツアー
「森と海、岩を抱き千年を息づいてきた洞杉～坂様谷の岩屋にも入ってみよう～」
- ・MEET TIME ミラージュランドでBBQ（婚活イベント）
- ・トランスジャパンアルプスレース講演会 講師 田中正人氏
「TJARに出場するということ～対自然・対人間・対自分～」

〈民生部長〉

- ・市民公開講座「正しく知って、悪化させない！！糖尿病」
- ・第23回環境フェスティバル「森と水・山がはぐくむ魚津の海」（ありそドーム）
- ・人権啓発講演会 講師 八名信夫氏（新川文化ホール）

〈産業建設部長〉

- ・うおづグルメフェスタ2017肉まつり3（ミラージュランド）
- ・魚津市空家等対策審議会（平成29年度第1回）の開催
空家管理業務サービスの実績報告、建物の活用に関するアンケート回収結果等。
- ・バスの日（魚津市民バス・地鉄バス無料デイ）
地鉄は今年初めて無料デイに参加。市民バス運転手も募集中。
- ・第10回Sea級グルメ in 魚津の出展メニューが決定
北海道から九州まで過去最多の25グルメが集結。魚津からは魚津バイ飯を出展。

3. 質疑応答の内容

「北朝鮮ミサイルに関する対応」

《記者からの質問》

今朝の北朝鮮ミサイルの対応として、県では防災危機管理課へ職員が参集され、富山市でも5人程担当課の職員が自主的に登庁したとのことだが、魚津市において、今朝はどのような体制で対応にあたったか。また海に面している魚津市として、北朝鮮の危機をどのように検証しているか。また、私の取材では、魚津市の中島漁業の第八珠の浦丸が釜石沖にいて大丈夫だったとのことであったが、関係船舶もあると思うので、それらについての市長の所見と、今後にどのようにしていったらいいのかということについて、市長の思うところを聞かせてほしい。

《回答》（市長）

ミサイルの情報は午前6時頃テレビのテロップで知った。上空通過地域の情報が出た段階で、特別な対応は必要がないと判断した。一番気になったのは漁業についてである。サンマ船が出ていたので、その船が今どこにいて、どういった形でエマージェンシーが入るのが一番気になった。登庁してから、防災担当課に、そのあたりのことを確認した。操業している場所は、おっしゃられるとおりであり、実際に展開している場所は、今回ミサイルが着地点より北の方であり、直接今回の場所とは影響ないのだろうと思った。一番気になった情報の入り方については、我々の方から直接連絡することはできないが、基地港の方から漁船団の中心にそのような情報は伝わるとのことを確認した。

もうひとつ気になったことは、ミサイルが上空を通らなくても住民は不安を感じていると思われることである。そのようなときに、住民の方に何かアナウンスすることは必要なのではないかと個人的には思った。しかしながら、その時に伝える内容は難しいと考えている。テレビを見ている方には情報は伝わるが、例えば一人暮らしの高齢者など不安に思う方に対するアクセスを、リアルタイムでなくても出来るだけ早くできないかと個人的には思った。そういった意味で、住民への適切な情報の伝え方をどうしたらいいかを考えていく必要がある。防災行政無線ということも考えたが、どこに着弾するか分からない場合等は、まずは防災行政無線を使用する必要はあるが、そうでない場合にいきなり防災行政無線で流すのは問題があるのではないかと思う。状況に応じた情報の伝え方はとても難しいと感じており、そのあたりは自治体としてもしっかりと考えていく必要があると思った。

《記者からの質問》

報道によるとJアラートがならなかった自治体もあるようだが、いま言われた様に、有事でないときにどう伝えるかと、有事の時にちゃんと機能するかなど、いろいろ検証しなければならない。

《回答》

その辺の兼ね合いはとても難しいと思う。ミサイルが上を飛ばなかったから何もしなかったことに対して、まあそうだろうと納得する方もいれば、なにかあってもいいのではと思われる方もいるかもしれない。このあたりはとても難しいと思っている。

《回答》（企画総務部長）

今朝からの、魚津市職員の対応体制について、自分はテレビで情報を見てから登庁した。富山県がミサイル通過予測から外れているとのことではあったが、自分が登庁した時点で既に総務課職員が2名登庁し、県からのFAXなどによる情報の整理にあっていた。富山県でJアラートがなれば直ちに職員を参集するが、今回は富山県ではJアラートはならず、また、県からの情報も確認したうえで、朝一での職員召集の必要なしと自分の方で指示した。漁協関係は漁業協同組合を通じて、船籍の船の被害状況の把握に努めるように指示し、そのルートで状況の把握に努めた。

その他については、ニュースなり県からの情報を注視し、富山県魚津市に影響があるようであれば動くという体制をとった。

《記者からの質問》

今回は魚津とは違う場所ではあったが、その場所で魚津の船が操業していたかもしれない場所だったと思うと、身近なものに感じぞっとした。

《回答》（市長）

まさにそのとおりで、操業している方の身の安全がまず気になった。

「産婦人科クリニック」

《記者からの質問》

産婦人科クリニックについて、クリニック策定委員会のあとは、労働者健康安全機構と今後調整していきますとの話だったと思うが、ここまで予算化しているという事は、機構側と合意したと理解していいのか。

《回答》（市長）

この方針については、確認したということである。実際にどういった整備をしていくかということについては、これからである。

《記者からの質問》

策定委員会で話が出ていた開設後の運営形態について、必要な改修費と開設後の運営費は市が負担して、実際の診療や運営そのものは病院側でやるということは、その内容で合意したのか。

《回答》（市長）

細かな部分のやりとりはあるが、基本線はそうである。

《記者からの質問》

産前・産後ケア施設は、現在、病院の駐車場で使われている場所に建設予定か。

《回答》（市長）

その場所が、一番可能性が高いが、まだ確定ではない。

《記者からの質問》

今後、具体的な設計にあたり内容を詰めていくという話であるが、当初、策定委員会で出ていた10床程度の規模などは、まだ計画として生きているか。

《回答》（市長）

念頭にあるのはその規模である。しかしながら実際に場所が決まったことによって、どこまで作れるか制約がでてくるので、現地の状況を見ながらやっていくということである。

《記者からの質問》

設計費のなかで、分娩室は今の労災病院にはないということで、分娩室が必要とのことだが、帝王切開の場合は、手術室で対応するのか、分娩室でも対応できるのか。

《回答》（市長）

基本は手術室になると思う。現在の労災病院の手術室を活用していく。

《記者からの質問》

分娩室をいくつ作るかは、設計のなかに盛り込まなければいけないと思うが、それについてはどう考えているのか。

《回答》（市長）

現在、ドクターと現地を見ながら分娩室の数を検討中である。

《記者からの質問》

産前・産後ケアの施設の規模等と、分娩室の数とはあまり関係がないのか。

《回答》（市長）

一人の方がお産をしているときに、他の方もお産に入るかもしれない。そういう意味で、分娩室が一つだけでは安全面を考えると駄目かもしれないと考えている。規模のことだけを考えると分娩室は一つでいいかもしれないが、安全に対応できるという意味で、最低どれだけ必要かということの詰めをしている。産前・産後施設の規模とはまた観点になる。

《記者からの質問》

産婦人科医師の確保については、労災病院で開設するとなったことで、中野先生以外の人員確保について状況は変わったのか。

《回答》（市長）

状況は変わらない。中野先生以外の産婦人科医師の確保も当然必要となってくるので、いまその確保に向けていろいろあたっている最中である。

《記者からの質問》

分娩施設設計費補助とあるが、分娩室にかかった経費は魚津市が出していくという話なので、名称は補助と書いてあるが魚津市が全額出すということでよいか。

《回答》（市長）

全額補助である。基本の考え方として、イニシャルコストは市でしっかりみて、運営について、もし赤字になる部分があれば、それは市がカバーしていくという考え方である。

《記者からの質問》

経費の切り分けは難しいのでは。

《回答》（市長）

一定の考え方を決めたとうえで、運営しながら見直すところは見直していくということになると思う。